

### 3.産業 (1) 漁業

大阪湾は、豊富な水産資源に恵まれた海域であり、古くは「茅渟（ちぬ）の海」とも呼ばれていた。現在も様々な種類の漁業が営まれており、漁場として活発に利用されている。

大阪湾沿岸部には第1種漁港が17港、第2種漁港が3港、第3種漁港が1港ある。

漁業種類別には、多獲性浮魚資源を対象とする中型まき網漁業及び機船船びき網・ぱっち網漁業、底魚資源を対象とする小型底びき網（板びき網、石桁網等）漁業が盛んであり、このほか、刺網、釣り、はえ縄、たこつぼ漁業や養殖業等が営まれている。

大阪湾は、そのほぼ全域が漁場として利用されている。沿岸には漁業権漁場が設定され、主にノリとワカメの養殖が行われている。

#### 【参考】

「第1種漁港」：

利用範囲が地元の漁業を主とするもの。

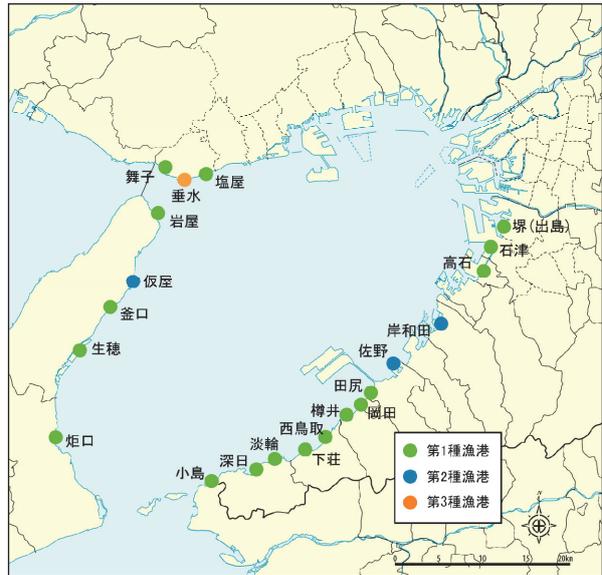
「第2種漁港」：

利用範囲が第1種漁港よりも広く、第3種漁港に属さないもの。

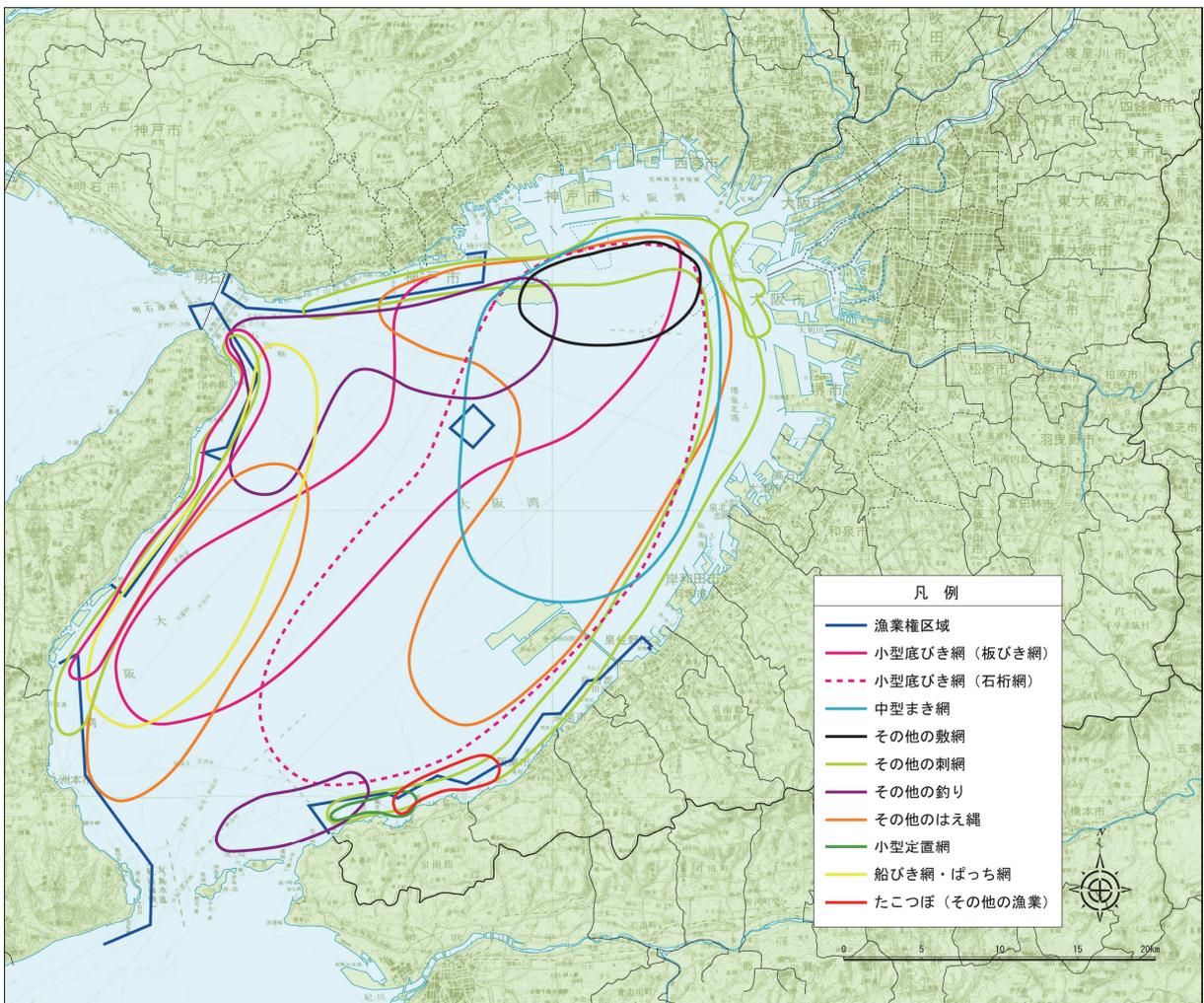
「第3種漁港」：

利用範囲が全国的なもの。

#### 漁港位置図



#### 主な漁場図



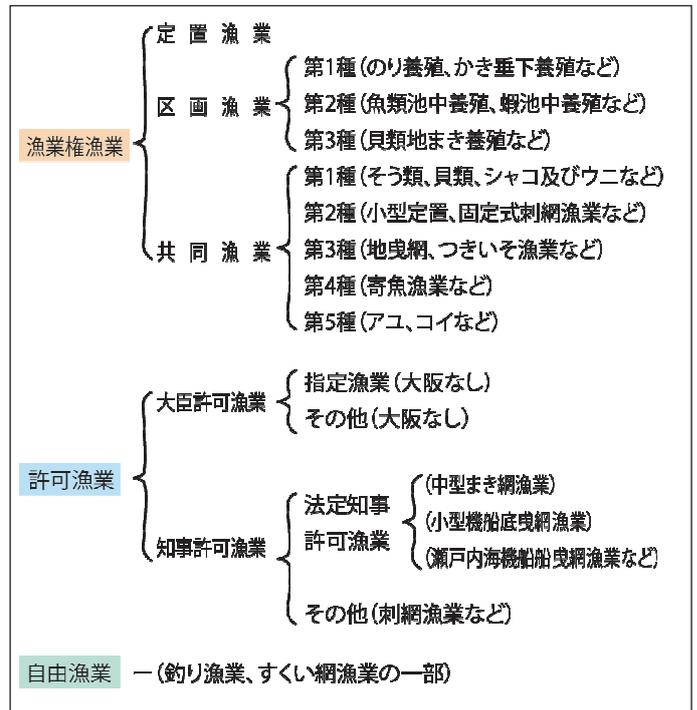
漁業は、漁業権漁業、許可漁業及び自由漁業に大別され、水産資源の保護・育成及び漁場整備のために、漁期、漁具（網目の大きさ等）、漁船の規模（トン数、馬力数）等に制限が加えられている。

主な漁期（大阪府、兵庫県）

漁業種類	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	主な漁獲物
小型底びき網													エビ類、タコ類、カレイ類
中型まき網													マイワシ、カタクチ、イワシ、コノシロ
その他の敷網													マイワシ、マアジ
その他の刺網													カレイ類、スズキ、クロダイ、サワラ類
その他の釣り													タチウオ、マアジ
その他のはえ縄													アナゴ
小型定置網													マアジ、スズキ、ボラ類
船びき網・ばっち網													シラス、イカナゴ、イワシ類
採貝													アサリ類
採藻													ワカメ類
たこぼし(その他の漁業)													タコ類
ノリ、ワカメ養殖業													ノリ、ワカメ

(注) 「その他の敷網」においては、大阪府での漁期を示す。兵庫県の漁期は10月～11月である。

漁業の分類



操業形態概略図



【参考】  
「漁業権」：  
都道府県知事の免許により、公共水面の区域を限って、特定の漁業を排他的に営む権利。以下の3種類がある。

- ・「定置漁業権」：  
27メートル以上の大型の定置漁業を営む権利
- ・「区画漁業権」：  
一定の区域で養殖業を営む権利（第1種から第3種）
- ・「共同漁業権」：  
一定の漁場を共同で利用して営む漁業の権利（第1種から第5種）

「漁業権漁業」：  
漁業権に基づいて行う漁業のこと。

「許可漁業」：  
漁業法、水産資源保護法、これに基づく農林省令、都道府県規則等により、農林水産大臣（大臣許可漁業）または知事の許可を受けなければ営むことができない（知事許可漁業）と規定されている漁業のこと。  
（水産資源の保護あるいは漁業調整のために、一般には禁止している漁業を一定の条件の下に特定の者に解除する）

「自由漁業」：  
漁業法令・規則等の制限を受けずに操業できる漁業のこと。（釣り、はえなわ漁業等）。

出典：大阪府環境農林水産部水産課提供

### 3.産業 (1) 漁業

大阪湾周辺市町村における平成29年の漁獲量は約36,600 tであり、魚種別の漁獲量はイワシ類が最も多く、次いでタイ類、タコ類等が多かった。漁業種類としては中・小型まき網漁業、船びき網漁業及び小型底びき網漁業等が多くの割合を占めていた。

漁業地区別の漁獲量は、岸和田市や神戸市、明石市、淡路島の各漁業地区等で多くなっていた。

#### 【参考】

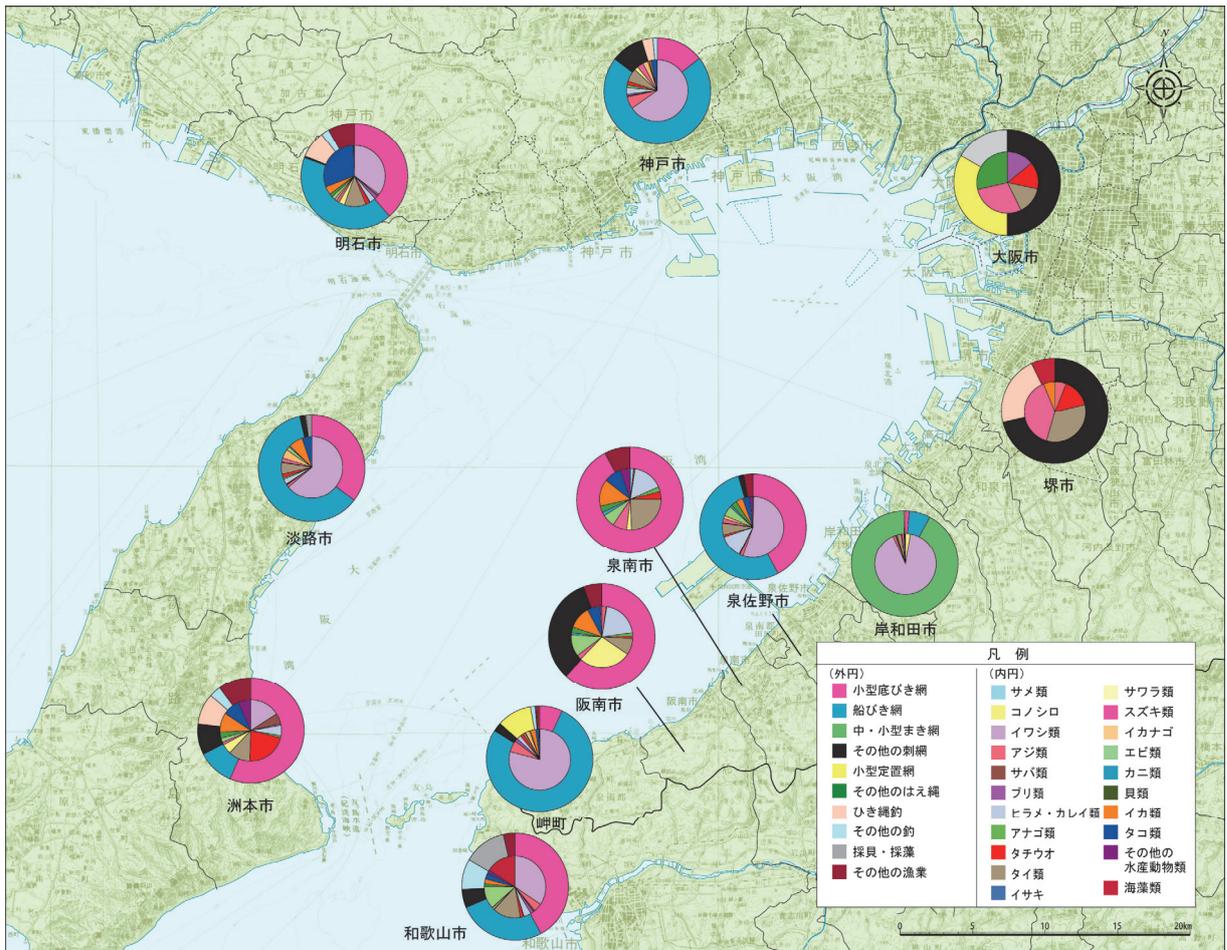
「漁業地区」：

市区町村の区域内において、共通の漁業条件の下に漁業が行われる地区として、共同漁業権を中心とした地先漁場の利用等漁業に関わる社会経済活動の共通性に基づいて農林水産大臣が設定するもの。

### 漁業地区



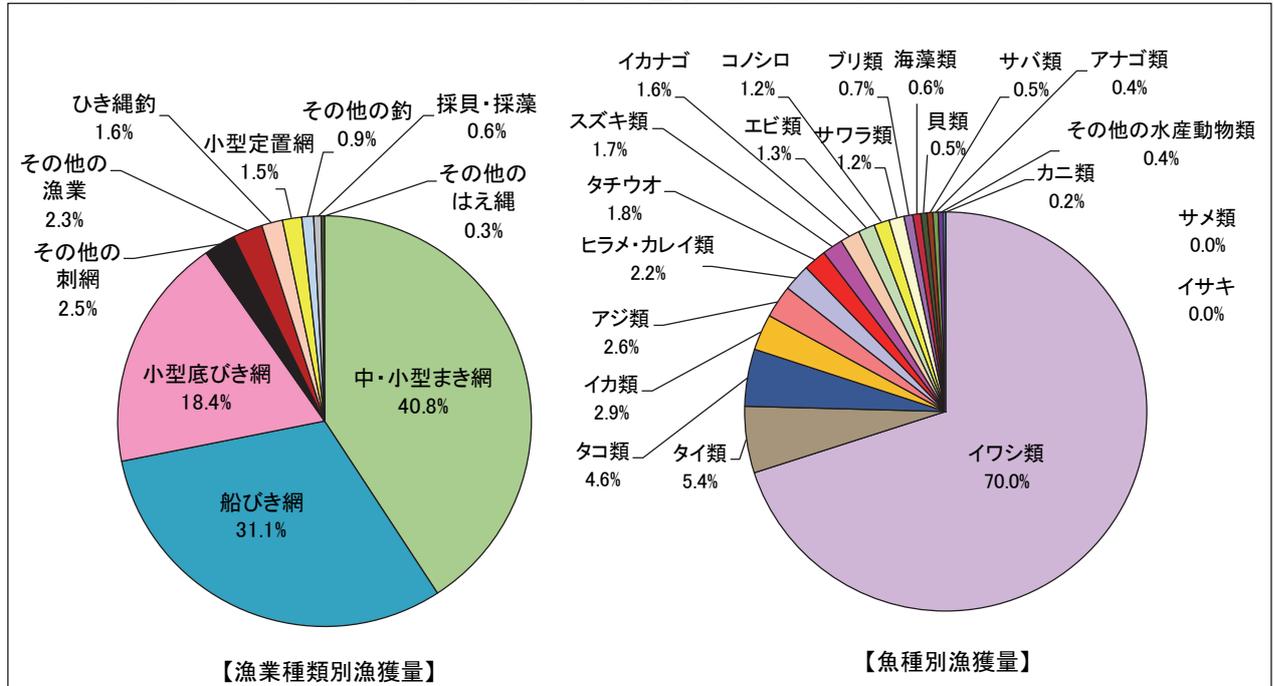
### 大阪湾周辺市町村における漁獲量（平成29年）



(注) 出典において「個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表しないもの」として、値が公表されていないものについては「0」として扱っているため、実際の内訳と異なる場合がある。

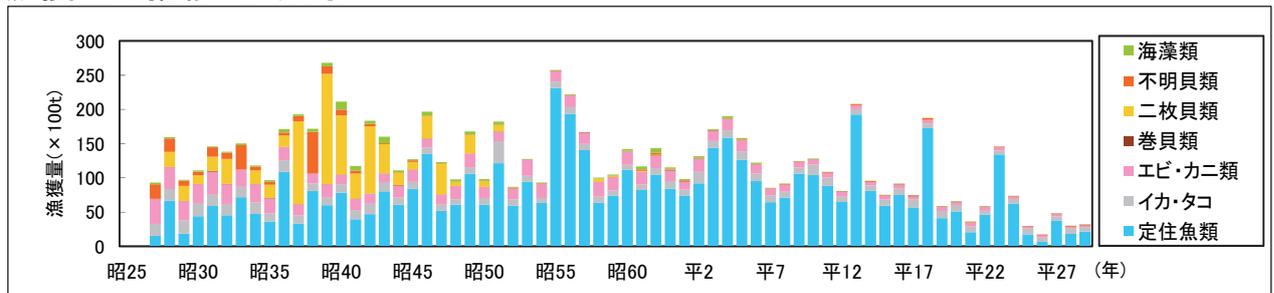
大阪湾における魚類の漁獲量は、昭和50年以前は二枚貝類が多くみられる年があったが、昭和50年以降はほとんどみられず、定住魚類が大きな割合を占めていた。また、漁獲量は年によってばらつきがみられるものの、昭和55年以降は減少傾向を示していた。

### 大阪湾周辺市町村における漁業種類別魚種別漁獲量（平成29年）



(注) 出典において「個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表しないもの」として、値が公表されていないものについては「0」として扱っているため、実際の内訳と異なる場合がある。

### 漁獲量の推移（大阪湾）



(注) 1. 大阪湾外から回遊してくる「入り込み魚種」等は含まない。  
2. 平成19年以降は定住魚類にニベ・グチ類を含まない。

大阪湾の主な漁業生物

マイワシ		7~10月頃 中型まき網漁業	カタクチイワシ		6~10月頃 中型まき網漁業
マコガレイ		3~8月頃 小型底びき網漁業 刺網漁業	メイタガレイ		2~6月頃 小型底びき網漁業 刺網漁業
イヌノシタ		1~6月頃 小型底びき網漁業 刺網漁業	タチウオ		9~12月頃 ひきなわ漁業 小型定置網漁業
マダイ		10~11月頃 小型底びき網漁業 小型定置網漁業	クロダイ		10~12月頃 中型まき網漁業 刺網漁業
サワラ <small>体重1kg未満はサゴシ</small>		4, 5~9, 10月頃 刺網漁業 ひきなわ漁業	ズズキ <small>体重20~30cmはセイゴ、 50~70cmはフッコ</small>		4~10月頃 刺網漁業 底びき網漁業
イカナゴ		2~4月頃 船びき網漁業 ぼっち網漁業	マアナゴ		12~7月頃 小型底びき網漁業 あなご籠漁業
サルエビ		4~8月頃 小型底びき網漁業	ガザミ		通年 小型底びき網漁業 刺網漁業
マダコ		7~9月頃 小型底びき網漁業 たこつぼ・かご漁業	シャコ		通年 小型底びき網漁業

凡例

表上段： 主な漁獲対象時期	回遊性表層魚類
表下段： 主な漁獲対象漁業	回遊性中層魚類
	定着性中層魚類
	回遊性底層魚類
	定着性底層魚類

(注) 主な漁獲対象時期は、年によって変動する。

大阪湾は、三大湾の中で第三次産業就業者数、県民所得、卸売販売額、小売販売額等では東京湾に次いで2番目となっており、経済活動の活発な地域となっている。

産業別にみると、製造業、卸売・小売業、不動産業等が多く、割合及び総生産額は平成18年度以降概ね横ばいで推移している。

市町村別の製造品出荷額等の分布をみると、湾奥部とその周辺の自治体で多く、大阪市、堺市、神戸市、明石市及び尼崎市の5市は1兆円を超えている。

産業別には、大阪市、堺市、高石市及び尼崎市等臨海工業地帯の中核を形成している市では、化学・石油、鉄鋼・金属等の重化学工業が高い割合を占めている。

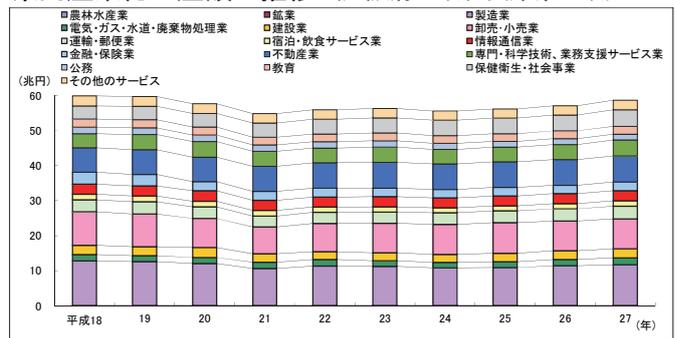
また、神戸市や明石市等では機械器具が、西宮市、芦屋市等では食料品・飲料が占める割合が高くなっている。

### 三大湾の産業比較

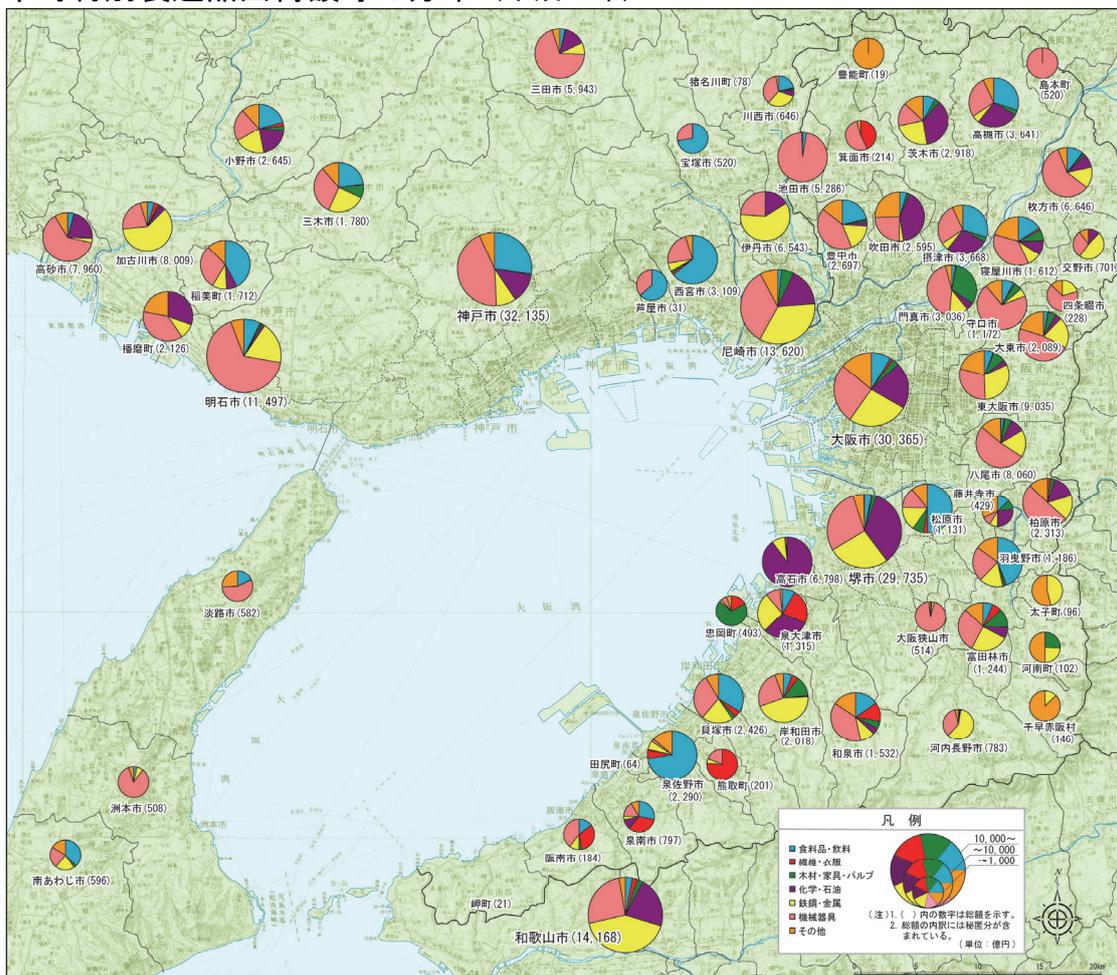
	単位	大阪湾	東京湾	伊勢湾
就業者人口 (平成27年)	計	6,877,149	14,968,253	5,328,883
	第一次	91,637	192,767	138,576
	第二次	1,704,792	3,129,297	1,771,100
	第三次	5,080,720	11,646,189	3,419,207
県民所得(平成27年度)	億円	505,563	1,397,445	395,740
農業産出額(平成29年)	億円	2,728	7,793	5,527
製造品出荷額等(平成29年)	億円	363,763	481,579	601,899
卸売販売額(平成28年)	億円	592,252	1,956,317	373,980
小売販売額(平成28年)	億円	180,054	408,522	124,843
輸出額(平成30年)	億円	101,495	162,133	161,135
輸入額(平成30年)	億円	84,961	236,474	80,572

(注) 大阪湾は京都府、大阪府、兵庫県／東京湾は埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県／伊勢湾は岐阜県、愛知県、三重県とした。

### 県内産業総生産額の推移(大阪府全域、兵庫県全域)



### 市町村別製造品出荷額等の分布(平成29年)



(注) 出典において「個々の報告者の秘密が漏れるおそれがあるので秘匿した箇所」として、値が公表されていないものについては「0」として扱っているため、実際の内訳と異なる場合がある。(すべての内訳が公表されていない場合は市町村名及び総数のみの表示である。)

3.産業  
(2) 産業

大阪湾周辺地域は、古くから我が国の経済の中心として栄え、各地で伝統的地場産業が発達している。

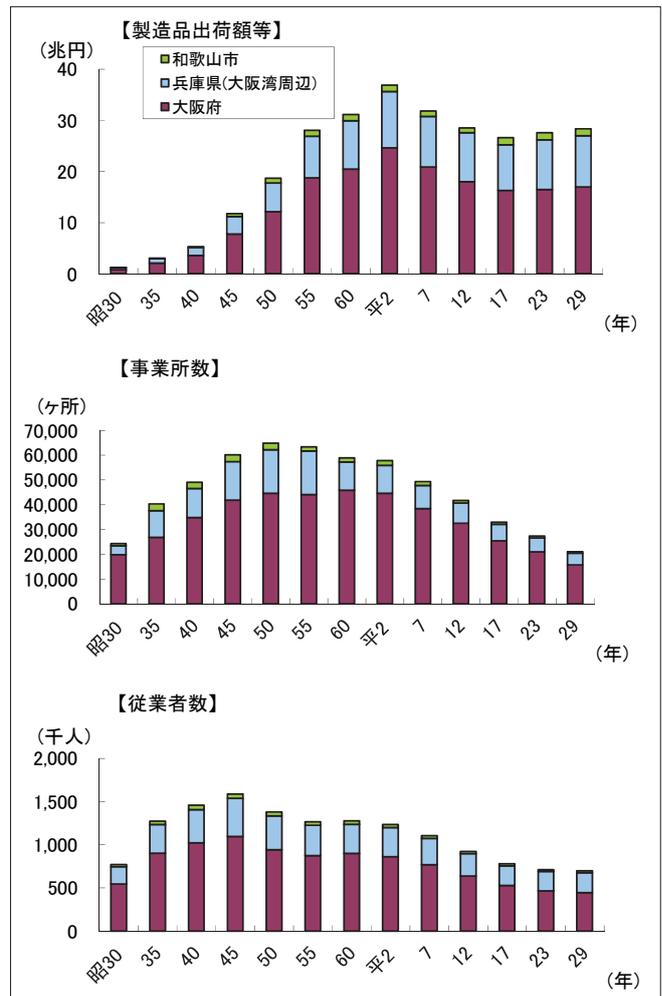
その主なものを挙げると、豊富で良質な水資源を活かした醸造業があり、西宮市から神戸市の臨海部における「灘の酒」は全国的に有名である。また、堺市は鉄砲や刀剣等の製造で栄えた町として名を知られており、現在でも刃物の製造が盛んである。このほか、北大阪地区や東大阪地区では家電製品の製造業や鉄鋼業、泉南地区ではタオル、毛布等の繊維製品製造業、淡路地区では温暖な気候と山地を利用して酪農が営まれ、乳製品製造業が盛んである。

大阪湾周辺地域の産業構造は、依然として製造業への依存が高いが、その内容は素材生産型産業から加工型へと変化してきている。また、テクノポート大阪（大阪市）等先端技術産業が高度に集積した複合・多機能型都市もつくられている。

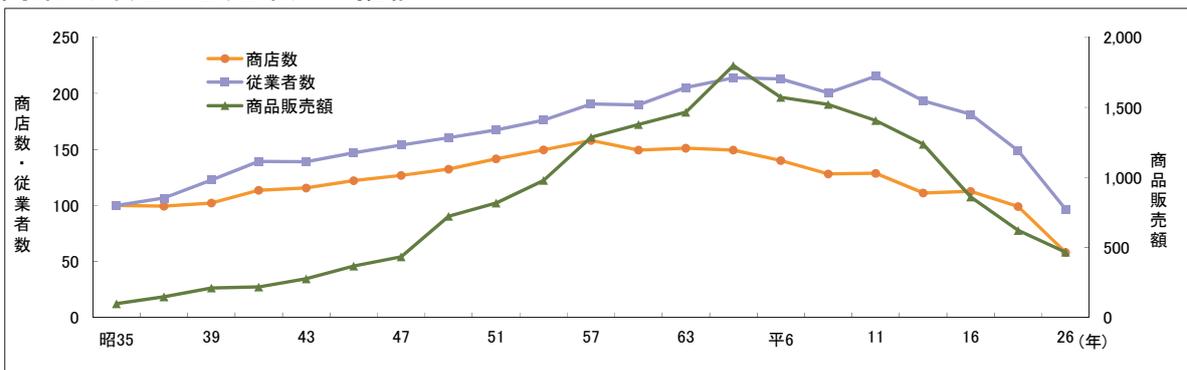
製造品出荷額等は景気の伸びとともに増加を続けていたが、平成2年度以降は景気が後退したことにより減少している。商業（卸売・小売業）年間販売額についても同様に、平成6年度以降は減少している。

一方、農業については農家数及び耕地面積ともに減少を続けている。

製造業の推移

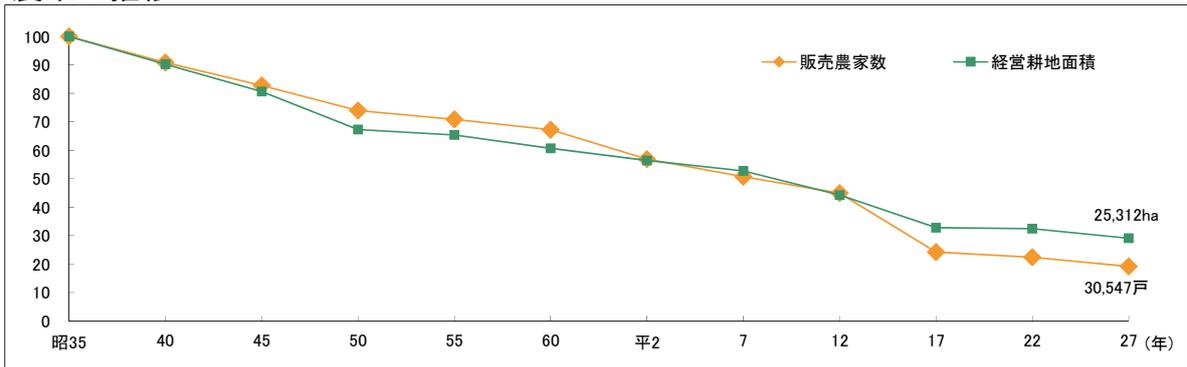


商業（卸売・小売業）の推移



(注) 昭和35年を100とした

農業の推移



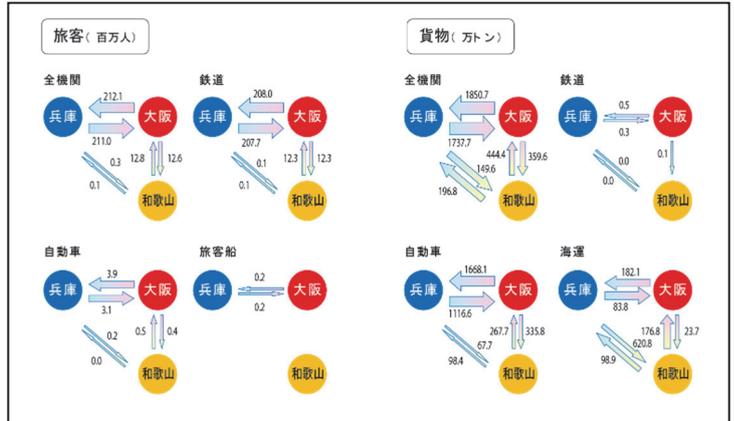
(注) 昭和35年を100とした

大阪湾周辺地域の陸上交通網は、大阪市、神戸市等大都市を中心にして海岸線に沿って発達してきた。人口が集中する大阪市及び神戸市等の臨海部や、関西国際空港、神戸空港からの交通需要に対応する高速道路や鉄道等が整備されている。

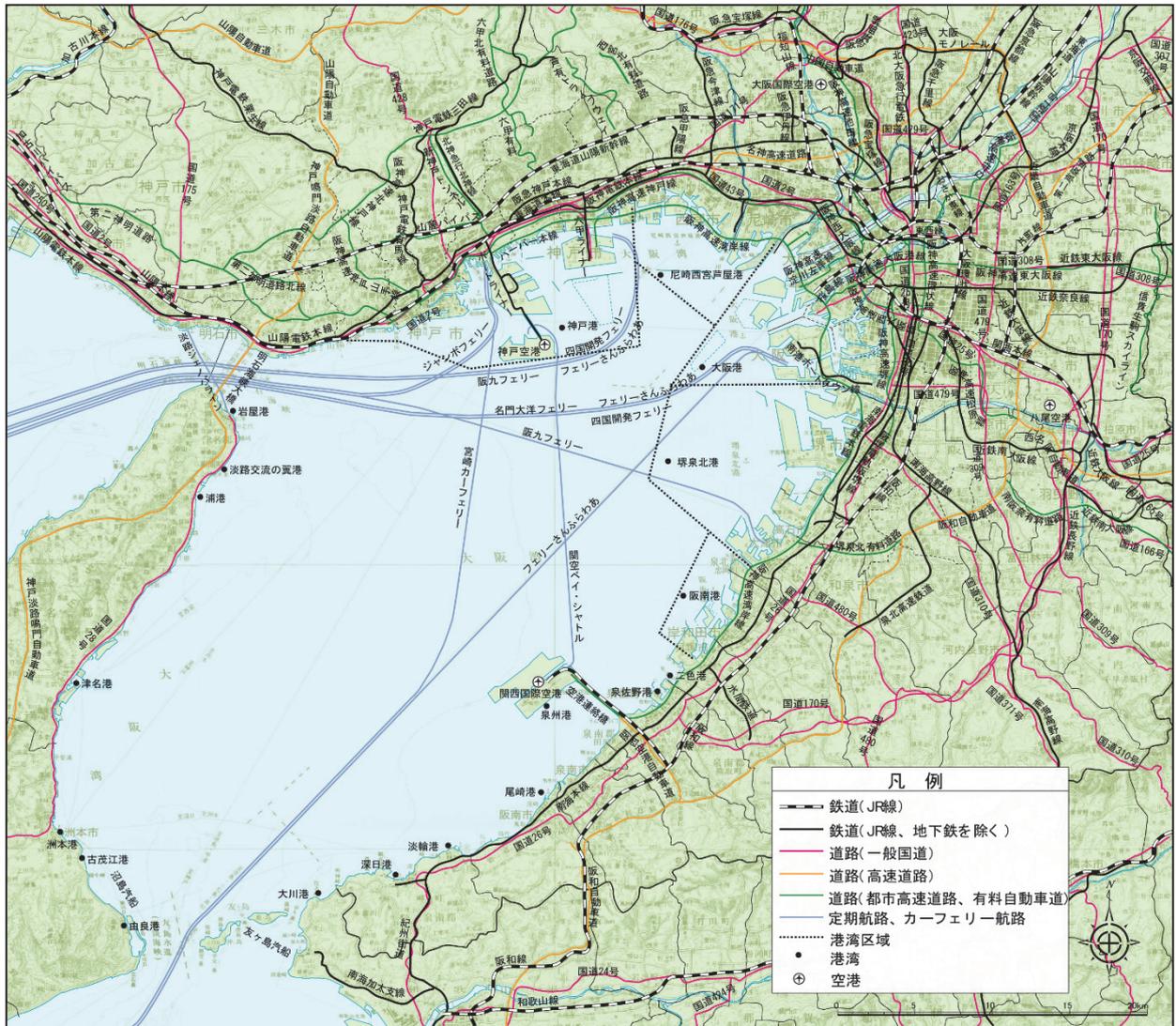
大阪府－兵庫県間の旅客・貨物の輸送機関をみると、旅客については鉄道が、貨物については自動車が多い。

海上交通についてみると、「フェリーさんふらわあ」等、四国及び九州を定期航路が結んでいる。

旅客・貨物流動状況（平成29年度）



交通網図



3.産業  
(3) 交通

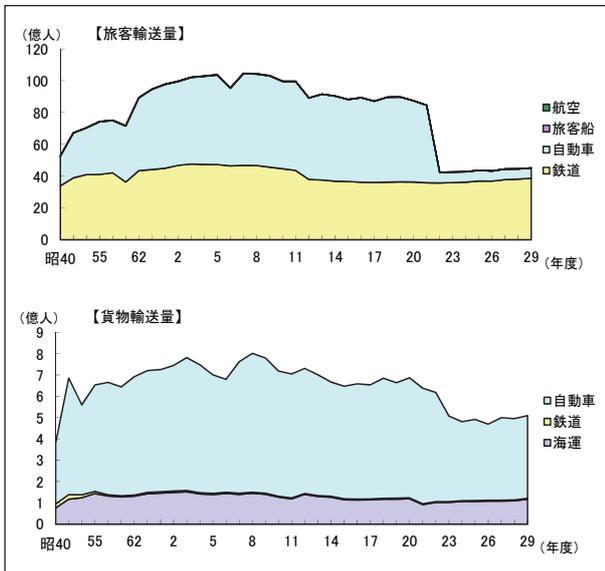
平成29年度の阪神地域（大阪府及び兵庫県）における旅客数は域内約45億2千万人、域外約5億3千万人、貨物量は域内約2億5千万トン、域外約3億9千万トンとなっている。

輸送機関別にみると、旅客については鉄道が、貨物については自動車の主となっている。

平成22年度以降の旅客・貨物の輸送量の推移は、旅客の輸送量はやや増加傾向にあり、貨物の輸送量は概ね横ばいで推移している。

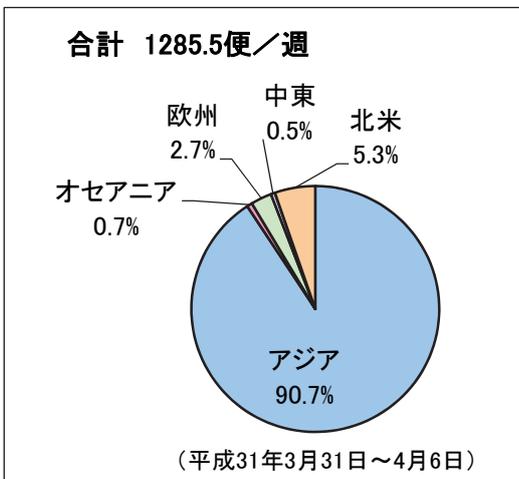
一方、航空輸送については、大阪国際空港及び関西国際空港では乗降客数は変動しながら増加傾向にあり、貨物取扱量は平成12年度のピーク以降は概ね一定の値で推移している。

阪神地域における旅客・貨物の輸送量の推移

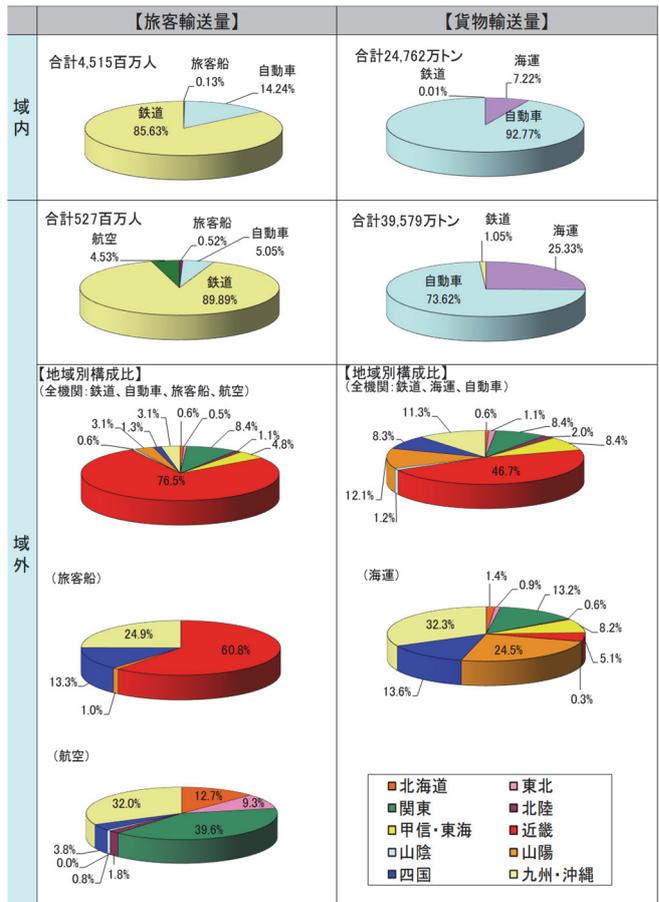


(注) 平成22年度から、「自動車」の数値は自家用自動車（登録自動車・軽自動車）を含まない統計となったため値が異なる。

関西国際空港における国際線就航状況



阪神地域における旅客・貨物の流動状況 (平成29年度)



航空輸送の推移

